

木村大輔 編

6ステップで組み立てる理学療法臨床実習ガイド

臨床推論から症例報告の書き方まで

高橋仁美（国際医療福祉大学保健医療学部理学療学科）

私は臨床現場で理学療法士として働いて37年になります。この間、臨床実習生の指導はもちろん、新人理学療法士を育成する経験を積ませていただきました。学生や新人の指導・育成では、若い頃は悪戦苦闘していたというのが正直なところですが、しかし、診療参加型臨床実習が導入されてからは、現場での思考法となる臨床推論法、理学療法の実践、理学療法士としての態度などを総合的に指導・教育ができるようになってきたと感じています。

現在、診療参加型臨床実習は一般的になってきていますが、大学などの授業だけでは、臨床現場に即した内容をしっかり学び、また実際の臨床実習ではどのように考え行動すればよいのかを習得するのは、なかなか難しいと思います。本書は、臨床推論法などを6つのステップに分け、実習現場での段階的な学び方について具体的にそして丁寧に提示しています。本書を臨床実習の教科書とすることで、現場における適切な理学療法を理解し、実践できるようになると信じます。また、臨床実習指導者においても理学療法の6ステップを通じて、臨床実習生や新人理学療法士への具体的な指導方法が理解できると思います。

編集の木村大輔先生は、川崎医療福祉大の教員ではありますが、大学病院で直接に学内臨床実習を行っている立場にあるとお聞きしております。本書を拝読させていただき、木村先生のこれまでの経験を踏まえた臨床実習への確固たる思いが込められて

いるのが伝わってきました。きっと本書は、職場の方や学生の意見も取り入れ、時間をかけて試行錯誤を繰り返して誕生したのだと思います。また、理学療法士作業療法士養成施設指定規則が大幅に改正され2020年4月1日から施行されますが、本改正により臨床実習の時間が増えることになります。このような意味で木村先生にとっては、まさにベストタイミングとなった入魂の一冊であると思います。

私は、学生や新人の教育においては、自己実現を図るために、まずは自分自身で資質を向上させていくという姿勢が大切であると考えています。そして、教育者や指導者は、学生や理学療法士が「自らが成長していく」という姿勢を支援していくことが重要であると思っています。本書は、本文の中で解説している三角ロジックや症例報告サンプルのダウンロード権付きとなっております。こうした工夫は実習に臨む学生が自らの力で理学療法を論理的に組み立てるための手助けとなったり、みんなの前で発表したりするためには有効に働くと思います。本書は、教員や実習指導者はもちろんですが、臨床現場における人材育成や指導者自身の資質向上のためにも活用できます。「若い時に出来ることができたんだよ良かったなあ」と思った1冊です。強く推薦させていただきます。

（B5・頁272 2020年 定価：本体3,600円＋税
[ISBN978-4-260-04134-8] 医学書院刊）